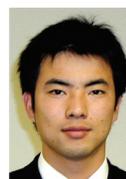


水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム及びアジア河川・流域再生ネットワーク設立の報告

技術普及部 伊藤 将文



はじめに

2006年11月9日に都内で『水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を開催した。このイベントはアジア河川・流域再生ネットワーク（以後ARRN）主催によるもので、中国水利水電科学研究所（IWHR）、韓国建設技術研究院（KICT）及び(財)リバーフロント整備センターが共催した。本稿はフォーラムの開催趣旨及びARRN設立の意図の概要を報告するものである。

開催趣旨

本フォーラムは、アジア地域を中心に、河川の自然再生のための情報交換ネットワーク（ARRN）の構築を目的として3年前から開催しており、今回で3回目の開催となる。

今回のフォーラムは、第4回世界水フォーラム「自然再生分科会」での提言を踏まえて、中国、韓国、日本の3カ国を軸にしたアジア河川・流域再生情報ネットワーク「Asian River Restoration Network (ARRN)」の設立を目的として開催した。

フォーラムの講演内容は次のURLに講演資料を含めて掲載しているので参照されたい。

(URL:http://www.a-rr.net/japan/events/eventhtml/4_i_forum.html)



フォーラム開催風景

ARRNとは

ARRNは日中韓の3ヶ国の組織による連携した情報交換を行い、行政関係者、技術者から個人まで、幅広い層との情報共有を目的とした情報交換の仕組

みである。今まで国際的な連携組織は数多く組織されているが、当ネットワークは、個人レベルまで情報が行き渡る仕組みとした点が特徴である。

ARRNの活動はインターネット、メールを通じた情報交換、セミナー、イベント等の開催を日中韓が独自の活動したり、時に連携した活動を行うこととしている。ARRNの組織、活動の詳細はWebサイトに譲る。

(URL: <http://www.a-rr.net/japan/index.html>)



組織概念図

ARRNの日本国内の活動を行う組織として日本河川・流域ネットワーク（JRRN）がある。現在、無料の会員を募集しており、ご興味がある方は是非事務局までご連絡いただきたい。(register-1109@a-rr.net) また、韓国、中国においても、同様にKRRN、CRRNの設立が現在進行中である。

最後に

近年、エコロジカルフットプリントという環境指標によると持続可能な環境構築が急務とされており、最悪な場合、十数年後の近い将来には食糧や資源の不足等による現在の社会への警告がなされている。特に、その対応策として国、地域、個人レベルにおいて『水』をキーワードとした環境再生が求められている。

ARRNはその活動を通じて環境の再生保全を目指し、持続可能な社会の構築に貢献するものである。